

防災対策推進検討会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 今後の検討の進め方について

○二つのレベルの津波

- ①発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波
⇒ 住民避難を柱とした総合的防災対策
- ②発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波
⇒ 防波堤など構造物によって津波の内陸への浸入を防ぐ

○南海トラフ巨大地震の特徴

- ・ 広範囲での巨大な津波高
- ・ 津波の到達時間が数分と短い地域が存在
- ・ 都市の形成や地形において異なる地域が対象
(大都市、中小都市、平野部、リアス式海岸等)
- ・ 広範囲での強い揺れ

南海トラフ巨大地震対策
検討WG設置
(H24年4月20日第1回会合)

人的・物的被害の推計
(H24年6月頃)

当面実施すべき対策の
とりまとめ
(H24年夏頃)

経済被害等の推計
(H24年秋頃)

月に1～2回程度開催

■主な検討項目

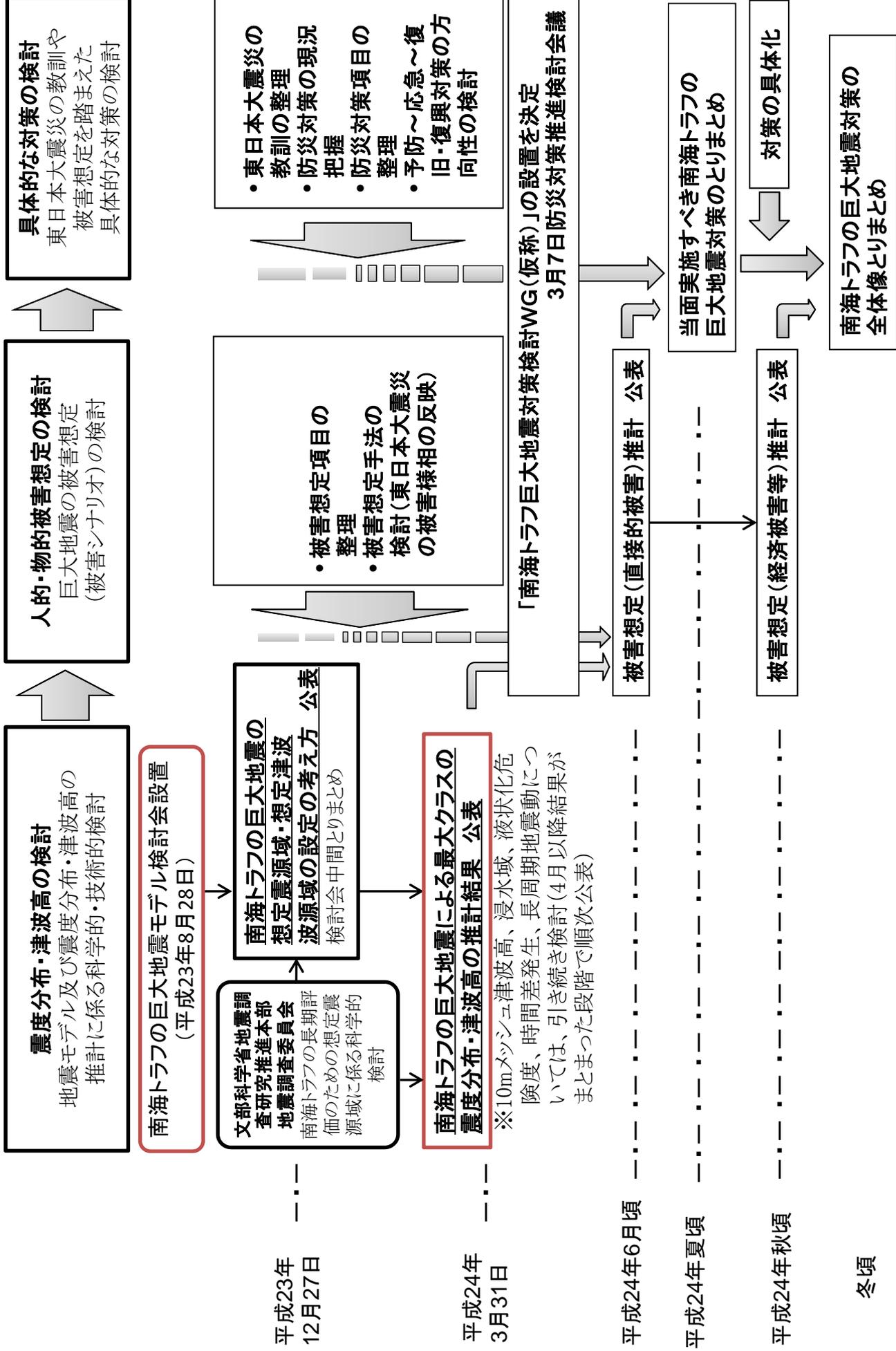
- 確実な情報伝達体制
- 津波からできるだけ短時間で円滑に避難できる方策(5分で避難)
- 長期的視野に立ったまちづくり
(高台移転方策など)
- 揺れの被害を軽減するための対策
- 防災意識の向上
(防災教育・避難訓練の充実)
- 施設整備方針の具体化
- 広域応援体制の検討
- 国による支援方策
(法的枠組みを含む) 等

対策の全体像のとりまとめ(冬頃)

※津波避難に関わる項目については
津波避難対策検討ワーキングと連携

南海トラフ巨大地震に係る検討スケジュールについて

平成24年4月現在



中央防災会議「防災対策推進検討会議」
南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ
委員名簿

主査	かわた 河田	よしあき 惠昭	関西大学社会安全研究科・社会安全学部理事・学部長・ 研究科長・教授
	あべ 阿部	かつゆき 勝征	東京大学名誉教授
	いしい 石井	としあき 俊昭	石油連盟環境安全委員会安全専門委員会消防・防災部会長
	いで 井出	たかこ 多加子	成蹊大学経済学部教授
	いまむら 今村	ふみひこ 文彦	東北大学災害科学国際研究所副所長・教授
	おざき 尾崎	まさなお 正直	高知県知事
	かめい 亀井	あつし 淳	株式会社イトーヨーカ堂代表取締役社長
	しげかわ 重川	きしえ 希志依	富士常葉大学大学院環境防災研究科長・教授
	しみず 清水	ひろし 泰	静岡県焼津市長
	すがわら 菅原	あきふみ 章文	一般社団法人中部経済連合会常務理事
	たなか 田中	あつし 淳	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授
	たなか 田中	りさ 里沙	株式会社宣伝会議取締役編集室長
	たむら 田村	けいこ 圭子	新潟大学危機管理室教授
	ふくわ 福和	のぶお 伸夫	名古屋大学減災連携研究センター長・教授
	むらの 村野	じゅんこ 淳子	大分県社会福祉協議会専門員

計 15名
(敬称略)